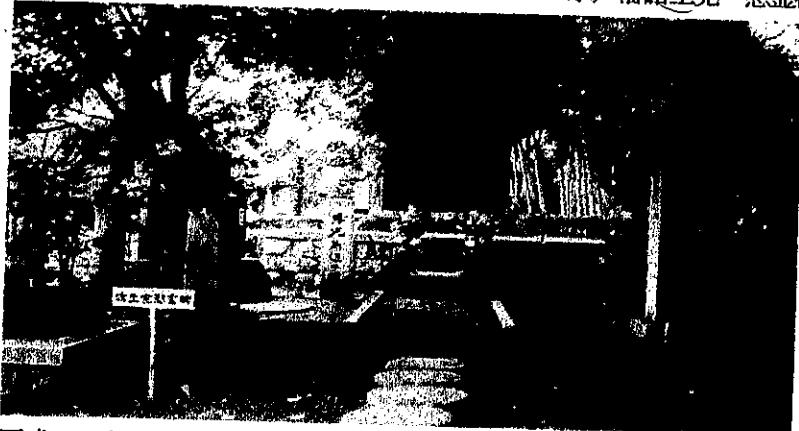


# 知恩 第22号

水戸市 祇園寺境内に建立されている  
水戸藩諸生党 慰靈碑である 恩光無辺の碑



平成29年9月17日、祇園寺において水戸藩(諸生派)国事殉難志士慰靈式を挙行致しました。  
水戸藩国事殉難者慰靈式 次第

|          |  |             |                   |
|----------|--|-------------|-------------------|
| 日時       | 平成29年9月17日(日) 午前10時より午後3時まで              |             |                   |
| 場所       | 曾洞宗壽昌山 祇園寺 本堂                            |             |                   |
| 受付       | 水戸市八幡町11-69 祇園寺電話029-221-5229<br>午前11時より |             |                   |
| 司会       | 岡見委員                                     |             |                   |
| 第1部      | 式典                                       |             |                   |
| 正午       | 開式                                       |             |                   |
|          | 1 読経                                     | 祇園寺 小原宜弘 住職 | 小原副住職             |
|          | 2 追悼の辞                                   | 川上有文 会長     |                   |
|          | 3 式辞                                     | 高橋 靖 水戸市長   |                   |
|          | 4 焚香拝礼                                   | 來賓          | 來賓各位              |
|          | 5 焚香拝礼                                   | 本会          | 顧問、正副会长長          |
|          | 6 本会関係者                                  |             | 会員各位(自由焚香拝礼)      |
| 午後12時30分 | 閉式                                       |             |                   |
| 記念写真撮影   | 本堂内                                      |             |                   |
| 恩光無辺碑    | 拝礼                                       |             |                   |
| 第2部      | (会食、交流会)                                 | 客殿・大広間ににおいて |                   |
|          | 1 開会                                     | 岡見委員        |                   |
|          | 2 主催者                                    | 挨拶 前澤瑞穂     | 副会長               |
|          | 3 來賓代表                                   | 挨拶 村田進洋     | 水戸市議会議長           |
|          | 4 講話                                     | 市村眞一        | 本会顧問 (市川三左衛門について) |
|          | 5 会食 相互交流                                | 懇談          |                   |
|          | 6 閉会                                     |             |                   |
| 午後3時     | 全・終了                                     |             |                   |

### 追悼の辞

本日、ここに、水戸藩「諸生派国事殉難士」慰靈法要挙行に当たり、ご来賓の皆様ご臨席のもと、子孫関係者一同、碑前に集い、殉難諸士のご冥福をお祈り申し上げます。

「明治戊辰 德川宗家の衰靡を悲しみ 慷慨難に赴く者 水戸藩士中数百人を下らず 皇恩洪大 宗家の後に録す 遺靈また以て瞑すべし 茲に其の姓名を挙げ 碑背に録す也」  
幕末維新の激動期に、國の行く末を憂い、一途に尊皇敬幕・報恩士道の信念のもとに、國事に奔走し、不慮の死を遂げ、屍を各地の山野にさらし、多くの有為の人材が散華された事は、誠に痛恨の極みであり、残念であります。

党派を別にし、其の主義は異なるも、君に対する忠誠心に於いては少しも異なる所は無いと、室田義文翁のお言葉の通り、私達も信ずるものであります。

本日、ここに、往事を偲び、改めて、各地に散華した人々に思いを致し、この先祖代々の地・水戸に於いて、皆様と共に、鎮魂慰靈の誠を捧げるものであります。

私共は、幕末騒乱に際し、不幸にして散華した人々に光をあて顕彰し、この慰靈の行事を通して、門閥諸生派に関する悪しきイメージを払拭し、殉難諸士の名誉回復に努力し、水戸藩の歴史の眞実を風化させることなく、未長く後世に伝えて参る所存であります。

きみゆえに すつるいのちはおしまねど

忠が不忠になるぞ 悲しき

水戸藩諸生派国事殉難諸士の心情は、この歌に込められた「心」と全く同じであると思います。

幕末維新の大転換期に、事、志と異なると雖も、心安らかにご冥福をお祈り申し上げます。

平成29年9月17日

水戸殉難者恩光碑保存会  
会長 川上有文

### 水戸市長 式辞

本日は、水戸藩国事殉難者慰靈法要にお招きいただき、厚く御礼申し上げます。また、幕末・維新期における殉難者の方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。.

さて、幕末維新期の水戸藩では、國の未来を考えながら、異なる立場に立つことで、藩内が二分され、戦いが繰り広げられました。その結果、多くの有為の人命が失われると共に、明治以降も人々の心中に深い傷が残る事になりました。

こうした中、川上会長をはじめ水戸殉難者恩光碑保存会の皆様におかれましたは、会報「知恩」の発行など普及啓発事業を実施し、幕末・維新期の水戸藩における先人を顕彰するとともに、新潟県柏崎市にある灰爪の丘を始めとした水戸藩関連史跡の保全に務めるなど、水戸の歴史を伝承していく活動に精力的に取り組まれております事に、深く敬意を表します。

本市におきましても、昨年度、神應寺（じんのうじ）にある諸生派慰靈碑「慷慨淋漓（こうがいりんり）」の碑の側に、碑の建立の経緯や文化財としての価値を記した説明板を設置するなど、幕末・維新期の歴史の啓発に努めているところでございます。

来年は、明治改元から150年の節目に当たり、水戸殉難者恩光碑保存会の皆様におかれましては、様々な顕彰行事を予定しているとお聞きしております。

江戸から明治へと時代が変わる中で起こった、悲しく、痛ましい歴史の出来事を後世に伝えていくという取り組みが、一層推進されることを切に願います。

最後になりましたが、水戸殉難者恩光碑保存会の益々のご発展と、本日ご参集の皆様のご健康をお祈りしまして、私の挨拶とさせていただきます。

平成29年9月17日

水戸市長 高橋 靖

本日 水戸藩国事殉難者慰靈式に参列された方々

本日参列者(来賓、顧問)

高橋 靖様 水戸市長  
岡田 広様 参議院議員 元水戸市長  
村田進洋様 水戸市議会議長  
本多清峰様 水戸市教育委員会教育長  
白石嘉亮様 水戸市教育委員会歴史文化財課長  
中山義雄様 幕末維新水戸有志を偲ぶ会会長  
川上 清様 幕末維新水戸有志を偲ぶ会事務局長  
高橋丈夫 本会顧問 水戸市議会議員 元議長  
市村眞一 本会顧問 常磐大学教授 前茨城新聞社相談役

会員参列者

前澤瑞穂、川上有文、岡見円礼、大森信明、門井孝廣、成田行弘、弓削徳衛、松葉尚志  
遠西輝夫、田口 寛、大森信宏、小山文子、川上有俊、大森信男、大森信樹、市川達也  
野田敏晴、平戸吉衛、深谷益美、朝比奈泰将、阿久津俊男、太田原恵美、  
塩澤美奈子

以上の皆様に、お忙しい所、慰靈式にご参列いただきました。



岡田様

高橋水戸市長

小原住職

川上

村田議長

前澤

### 御礼

本日は、お忙しい所、諸生派殉難慰靈式にご参列頂きまして有り難う御座いました。

水戸市長様はじめ、御来賓の皆様ご臨席のもと、慰靈式典を行うことが出来まして、泉下の殉難諸士も、さぞかし、喜んでいるものと思います。

ご承知の事と存じますが、本年は、諸生派諸士が、明治元年に殉難してから149年になります。恩光無辺の碑が建碑されてから83年、慰靈祭を復活してから13年になります。長い間、顧みる者も無かった諸生派殉難諸士に、少しでも「光」を当てることができたのも、水戸市当局の皆様、水戸市議会の皆様、ご来賓の皆様の温かいご支援ご協力と、会員皆様の先祖を思う篤い心と協力によるものと思います。有り難く篤く御礼申し上げます。

私共は、水戸藩幕末史において、水戸藩朋党についての色々な「見かた」があることは、充分に承知して居ります。（勝てば官軍、負ければ賊軍）

諸生派の恩光無辺の碑は、天狗党の先達である室田義文翁のご尽力により、建碑されたものであります。室田翁は、どうして、此の碑を建てられたのでしょうか。

翁は、「自分がこの諸生派の碑をつくらなければ誰がこの碑をつくるだろうか」「勝敗を超えて共に供養すべきである」「この殉難志士を供養するのは後世の人々の努めである」と言わわれています。また、

諸生派の人々も、主義主張は異なっても、両派共に、各その君に対して尽くした忠誠心は少しも異なる所は無いのであると言われており、弘道館で共に学んだ友人が、諸生派に属して大部分斃れている事を以て、同情の思いから建碑し供養することになったとも言われています。

私共は、これからも、室田翁のお言葉を戴し、諸生派殉難諸士の慰靈供養を続けて参る所存であります。

そして、多くの人々に、幕末水戸藩諸生派に、多くの有為の人材が居た事を知って頂き、時勢とは言え、残念ながら、全滅してしまった悲惨な史実を知って頂き、水戸藩末史の真実の理解の輪が広がる事を切に願い、諸生派殉難諸士の名誉が回復される事を心から願っております。

恩光無辺の碑は全諸生派殉難諸士の御靈を供養する唯一の慰靈碑であります。

本日は、本当に有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。

平成29年9月17日

水戸殉難者恩光碑保存会

川上有文

本年、平成29年度の主たる行事である 水戸市祇園寺における 水戸藩国事殉難者の慰靈式は、滞りなく済ますことが出来ました。来賓の皆様、会員の皆様、改めて、厚く御礼申し上げます。さらに

来年、（平成30年）は、明治維新150年の節目の年に当たります。

本会においては、諸生派殉難150年を偲んで、特別の記念事業を計画しています。

- 1 記念誌の発行
  - 2 会津・新潟史跡研修と慰靈の旅
  - 3 千葉県匝瑳市八日市場 史跡研修と慰靈の旅
  - 4 水戸市祇園寺において 諸生派殉難150年を偲び・特別慰靈祭を行う
  - 5 講演会の開催
- 現在検討中であり、計画が確定しましたら、お知らせ致します。

対外関係について 報告

諸生派ゆかりの地である・匝瑳市、会津若松市、柏崎市で、諸生派殉難諸士を長年にわたり供養されている皆様と交流を続けています。最近の状況を書翰を引用して、その要点を皆様に報告致します。

1 新潟県柏崎市西山町灰爪 供養塔と埋葬管理について

◆尾崎忠良様より書簡 「要点のみ」 平成29年8月20日

早速ですが・・・

灰爪の丘入口

現場入り口には、木柱で「戊辰戦争激戦地」の案内標識がありますが、是も腐食しておりますので、今後の課題と考えております。

供養塔が建立されています土地は・・・

当初は、「墓地・埋葬などに関する法律」に触れる、農振法の除外などの諸問題があつて結論として

供養塔建立当初は「供養塔建立用地10坪は荒木家光氏が西山町へ寄付し、(現在柏崎市)、維持管理も西山町」柏崎市が行う事で落着したのであります、・・・

家光氏の長男の荒木邦栄さんが「家光氏が市へ。寄付した供養塔用地を 家光氏の長男の荒木邦栄さんが「家光氏が市へ寄付した供養塔用地10坪を返還登記し」現在は「故 荒木邦栄 所有」となっております。

従いまして、柏崎市も維持管理に難色を示し、難しくなっておりますのが現状であります。

結論として・・・

私(尾崎)が、「志なかばで尊い命を捧げられた藩士の方々へ哀悼と鎮魂の意味から」

供養塔の維持管理は、尾崎が「人として恥じる事なく、自分の命に恥じる事の無いように頑張る以外にないとの結論から、同志を募りまして2人位で頑張らせて頂きますので、どうぞ、当分の間は御安心下さい。

これからも天候不順もあると思いますが、御身体をご自愛なさいまして、今後ともよろしく御交誼の程を宜しくお願ひ申し上げます。

越後の 里の 鎮かなる やどりに ありて

平成29年8月20日 旧椎谷藩士 尾崎家18代 尾崎小十郎忠良

◆尾崎忠良 様へ 当方より返事「要点のみ」 平成29年10月1日

過日、水戸関係者御地お伺いの折は大変お世話になりました。

その後、御地の事情報告を聞き、なかなか難しい状況にあると思いました。

そのままにしておくわけにはいきませんので、今後も、水戸市教委に灰爪の丘をどうしたらよいかご検討下さいます様お願ひして参ります。

市教委としては、仮称ですが

「灰爪の丘・史跡を守る会」などの将来を見越して持続性のある小組織を作っていただき、

その守る会に 環境整備管理費を助成したいとの意向であるやに聞いております。

従って、ご面倒をおかけしますが、小組織を作り、はじめは、2・3人賛同者を募集して頂いて守る会を発足させる様 お願ひしたいと存じます。

又、先日・9月15日、水戸市長に直接面談、灰爪の丘の事情を説明し、善処下さい様お願ひして参りました。

以上、要件のみにて失礼致します。

2 会津若松市と水戸市の親善交流都市 締結について

◆会津史談会 坂内 實会長よりの書簡「要点のみ」 平成29年9月1日

会津史談会が御地水戸市を訪問して、早くも2年が経ちました。訪問の際にはいろいろと心配りをして頂き 改めて厚く御礼申し上げます。

茨城県水戸市と会津若松市の両市間における「親善交流都市」の締結について、いろいろと行政側に働きかけをしています。平成28年3月には会津若松市長と会津若松市議会議長宛に要望書を提出しました。また、平成28年5月には会津若松観光ビューローと会津若松商工会議所にも同じ要望書を届け、ご理解とご支援をお願いしました。その後においては目立った進展は見られませんが、ご承知のように、今年の2017年(平成29年)は戊辰150年にあたり、来年の2018年(平成30年)は戊辰150周年に当たります。

会津史談会としては、様々な機会をとおして、水戸市と会津若松市の親善交流都市締結の意義について発信しています。最近では8月7日(月)に会津文化団体連絡協議会による市長との懇談会の席で質問したところ、今後においてよい方向になるよう進めていきたいと言う事でした。来年(平成30年)には戊辰150年周年を迎えます。ぜひ、この記念すべき年に水戸市と会津若松市の間で「親善交流都市」の締結がなされることを望んでいます。

御水戸殉難者恩光碑保存会としても、更に水戸市当局に働きかけを強め、実現に向けて運動されることを念願します。水戸市におけるその後の動向についてお知らせ下さい。

川上会長様はじめ皆々様のご健勝とご多幸を祈りつつ失礼致します。

◆会津史談会宛に当方より次のように返信しました。「要点のみ」 平成29年10月1日

水戸市・会津若松市の親善交流都市締結について

標記の件につき、お手紙を頂き有難う御座います。

御地においては各方面に働きかけを頂き心強く思っております。

戊辰150年を記念して、会津若松市当局が親善交流都市締結を決定されますことを心から願っております。

当方・水戸におきましても、過日 市議会で取り上げられた事はご連絡のとおりであります。先日、9月15日、川上は、本会顧問・高橋市議会議員、本会・岡見事務局長と共に、水戸市役所を訪問、高橋 靖市長に面談、親善交流都市 締結について、直接 締結実現をお願い申し上げました。その折、会津の状況について、お手紙の内容をお話し申し上げました。

今後は、締結気運は盛り上がってきましたことと 思いますので、行政間で直接話し合いをして頂き、是非、戊辰150年記念の年にあたり、親善交流都市締結が実現することを期待しております。

私共は、更に、担当の水戸市教育委員会 歴史文化財課を訪問、具体的に 締結実現交渉を進めて頂く様お願いして参ります。

御地においては、戊辰150年記念の年にあたり、沢山の行事があることと存じますが、当方においても、水戸藩諸生派国事殉難150年を記念して 平成30年には、再び現地の史跡研修と慰靈の旅を計画しています。現在計画検討中であります。又、水戸市 祇園寺においても、戊辰150年記念の特別慰靈祭を計画検討中であります。計画が確定しましたら、ご連絡致しますので、その節は 宜しく、お願ひ申し上げます。以上、要件のみにて失礼いたします。

3 平成30年に計画されている150年法要について

◆千葉県匝瑳市 依知川雅一様より書簡「要点のみ」 平成29年9月16日

過日、お電話のあった上記の件について、

①先日、水戸市教育委員会の課長から匝瑳市生涯学習課の課長に上記の件で挨拶の電話があった、ことを匝瑳市の職員から、依知川宛に連絡がありました。

②明日、祇園寺での法要後に、大まかな150年法要について話し合って頂いた内容を川上会長から水戸市教育委員会へ伝えて頂き、その後、双方の教育委員会で具体的に詰めて行くという方向で良いのでは、と匝瑳市生涯学習課の職員には伝えてあります。

そこで、

1 水戸藩国事殉難者慰靈法要の開催日程について

2 「脱走塚」の名称について 検討をお願いしたい

※名称の検討については、別紙資料をもとに、8月16日、中台・龍性院での施餓鬼会法要のあと、地区民に説明をしました。

「脱走塚」をよりわかりやすくするため、「脱走塚」のあとに(・・・)で、たとえば、「脱走塚」(水戸藩上の墓)、(諸生派終焉の地)など、恩光碑保存会でご検討頂いた内容を11月10日の匝瑳市文化財審議会に諮りたいと考えています。

今回の法要是150年の節目でもありますので、匝瑳市も前面に出て実施する方向で文化財審議会や市にも働きかけたいと考えていますので、今後ともよろしくお願ひします。

(中台区民への説明資料)

「脱走塚」(匝瑳市指定文化財・史跡)の名称に関する検討について 平成29年8月16日

(名称の由来)

1868(明治元年)10月6日(新暦では11月19日)、水戸藩諸生派市川三左衛門ら市川勢は、東北・北陸地方を転戦したのち、水戸城弘道館での戦いの後銚子から八日市場を通じて東京を目指す途中、松山・中台の地で追討する天狗派との戦いになった。

この戦いでの死者25人を埋葬したのが中台「脱走塚」である。

1889(明治22年)5月26日、「25人塚」において「21回忌」法要がおこなわれたことが当時の「東海新報」という新聞に報じられ、「水藩(水戸藩)脱走隊の法会」とあることから、この頃から、中台地区の人たちは「脱走塚」と呼んでいたと考えられる。

1916(大正5年)11月、市川勢の子孫・朝比奈知泉氏と中台地区の人たち等によって「弔魂碑」が建てられた。

大正8年に、大川すみえ女史の「松山戦争」と題する戦いの様子が書かれた写本があり、同10年に出版された「匝瑳郡誌」に「松山戦争」として記載されたことで、この呼び名が定着することになった。

1960(昭和35年)3月30日、「脱走塚」の名称で記念物・史跡として文化財に指定された。

1966(昭和41年)10月に、「100年祭」が行われた。その後、2008(平成20年)

2016(平成28年)9月に「脱走塚」で法要が行なわれた。

(名称の検討)

28年5月、脱走塚で法要が行われた際、水戸藩諸生派の子孫で組織する「水戸殉難者恩光碑保存会会長・川上有文)より太田安則・匝瑳市長に対し、口頭で、「保存会会員の中から、脱走塚という名称を現代にふさわしいものにしてほしいとの意見がある」と伝えられ教育委員会として検討する事になった。

来年(平成30年)は、「松山戦争」から150年の節目の年にあたる。近年、水戸市の研究者の中では、「松山戦争」を「八日市場・中台の戦い」とする意見も出され、次第に定着しつつある。「脱走塚」という名称は、歴史的にも、地図等にも使われ定着しているので、変えることなく、(・・)カッコ書きで補足説明的な言葉を加えることで、検討してまいりたいと考えている。

◆当方より返事として、

平成30年9月29日に、水戸藩士の墓前にて慰靈式実施の予定 「現在 日程は調整中」「脱走塚」(水戸藩士の墓) としたい

以上を、水戸市教育委員会 歴史文化財課 及び 匝瑳市 依知川様に報告致しました。

瑞龍之碑(常陸太田市 瑞龍山墓所)

◆東日本大震災により、水戸徳川家墓所は甚大な被害を受けました。その後、復旧に尽力しているところと存じますが、此のたび、「瑞龍之碑」が建立され除幕式が行われました。本会を代表して深谷益美・常務理事が参加しましたことを報告します。

国指定史跡 水戸徳川家墓所 東日本大震災復興記念  
瑞龍之碑 除幕式

2017年9月29日(金)午後13時30分

於: 国指定史跡水戸徳川家墓所 御装束所

謹啓

秋冷の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本日は水戸徳川家墓所東日本大震災復興の「瑞龍之碑」除幕式に、ご多用にもかかわりませずご来臨の誉れを賜り、誠に有り難く篤く御礼申し上げます。

併せて、式典に際しましては、至らぬことばかりとお詫び申し上げます。

お陰様にて、財団設立50周年記念事業として「瑞龍之碑」を建立し、ご支援を賜りました皆様のご芳名を永く顕彰しまして、一層活動の充実を図り、文化財の保護に邁進するとともに、以て我が国の文化の伝承に微力ながら尽力させていただく所存であります。

つきましては今後とも倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

本来であれば、拝顔の上お礼申しあげるべきところ、甚だ略儀ながら、書中をもってお礼申し上げます。

敬白

平成29年9月29日

公益財団法人徳川ミュージアム  
理事長 徳川斉正  
役員一同

★本会は会員の会費のみにて運営しています。会費は是非納入下さい様お願い申し上げます

★編集後記 来年はいよいよ、明治維新150年の節目の年、国事殉難者を偲び、記念事業を計画しています。会員は勿論一般市民有志の参加も頂き 県外ゆかりの地も含め、記念事業を行いたいと検討中であります。

知恩第22号

発行日 2017年(平成29年)11月15日  
発行所 水戸殉難者恩光碑保存会

発行人 川上有文

作成 事務局 編集委員会